

鯨交川村 皆さんの 送会だより

No
173

令和5年7月

題字：鯨川小学校

いしい ゆめ
6年 石井 唯愛さん



6
月
定
例
会

令和5年度 補正予算など可決	… 2~3
一般質問に6議員登壇	…… 5~11
議長・副議長就任あいさつ	…… 13
ふるさと鯨川への想い	…… 14



6月定例会の
あらまし

家計への支援策

6月定例会が6月7日から9日までの3日間の会期で開催されました。
第1日目に、一般質問を行い6名の議員が登壇し、村長選挙への立候補の所信、人口減少対策や今後の農業経営課題など様々な問題を取り上げ、村政を質しました。
次に、報告2件の内容の説明後、条例の一部改正等3件、令和5年度補正予算5件、規約の一部変更の提案理由の説明がありました。

第2日目に、総務文教常任委員会と産業厚生常任委員会を開き、議案を審議しました。
最終日に、審議した条例、補正予算等を含む9件を原案どおり可決しました。
また、請願1件を採択し、議員発議により意見書の提出1件を追加、さらに、村長より農業委員会委員、固定資産評価審査委員会委員、監査委員の選任同意の議案が追加提出され、原案どおり可決しました。

まめな暮らし応援商品券事業に

3160万円



報告

繰越明許費繰越計算書

〈一般会計〉

ふくしま森林再生事業ほか3事業

7872万円

白河地方土地開発公社の経営状況

村が出資している白河地方土地開発公社の令和4事業年度の経営状況について、議会に説明資料が提出されたもの。

条例改正・廃止

鮫川村奨学基金設置条例の一部改正

奨学基金に寄附があつたため、基金の額等所要の改正。

鮫川村国民健康保険税条例の一部改正

令和5年度の国民健康保険税について被保険者に係る所得割額、均等割額、平等割額等の算出の基となる税率等の改正。

新型コロナウイルス感染症により生じた事態に対処するための職員の特殊勤務手当に関する条例廃止

新型コロナウイルス感染症がら類感染症に移行したことや人事院規則において国家公務員の特殊勤務手当が廃止されたことから本村も廃止。

補正予算

物価高騰の影

補正予算の状況

会計別	補正額	補正後の予算額	
一般会計	5,405万円増	29億4,543万円	
特別会計	国保 事業勘定	356万円減	4億1,568万円
	簡易水道事業	179万円増	8,538万円
	介護保険	172万円増	4億8,139万円
	学校給食センター	160万円増	9,119万円
合計	5,560万円増	40億1,907万円	



一般会計補正予算の主な事業

歳		出	
臨時特別給付金 (住民税非課税世帯を支援するための給付金 1世帯3万円)	690万円	まめな暮らし応援商品券事業 (エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けている村民に対し商品券を配布。 1人1万円)	3,160万円
こどもセンター防火シャッター危害防止装置取付、非常用照明器具交換工事	230万円	道路維持補修工事 (村道内ヶ竜滝ノ下線他3路線の維持補修工事)	234万円
こどもセンター、小・中学校 スクールバス等車内置き去り防止装置 設置事業	128万円	村営住宅修繕工事 (広畑団地浴室設備更新整備)	200万円
大豆振興対策事業報償 (大豆加工品のPR、消費拡大のため達者の味噌を各世帯に配布)	62万円		

人事

農業委員会委員

鷲野谷 重一 (富田・中沢)

菊地 常夫 (渡瀬・下)

舟木 久 (赤坂西野・岡田)

圓井 正男 (赤坂中野・取上)

阿久津市男 (西山・折戸)

岡部 明 (青生野・赤小名)

森 洋 (赤坂東野・櫛久保)

遠藤サト子 (渡瀬・中野町)

◆ 任期 令和5年7月20日
令和8年7月19日

固定資産評価審査委員会委員

中川西 安男 (石井草・森ノ前)

◆ 任期 令和5年7月20日
令和8年7月19日

監査委員

森 洋 (赤坂東野・櫛久保)

◆ 任期 令和5年7月1日
令和9年6月30日

提出議案を徹底調査!

議案調査



事業内容の説明を受けた合同議案調査

**まめな暮らし応援商品券事業費に
3160万円**
令和5年度一般会計・特別会計補正予算等を総務文教・産業厚生両常任委員会で調査しました。

総務文教常任委員会

問 臨時特別給付金 690万円

答 低所得世帯(非課税世帯)1世帯につき3万円の給付

問 施設整備工事費 230万円

答 こどもセンター内防火シャッター装置取付、非常用照明器具交換工事

問 鮫川村奨学金設置条例の一部を改正する条例

答 棚倉町在住の方からの寄附金10万円増額

問 施設改修等工事費 36万円

答 小学校5年生教室のFF式石油ファンヒーター交換工事

問 備品購入費 128万円

答 幼児バス・スクールバス車内置き去り防止装置設置費

産業厚生常任委員会

問 大豆振興対策事業報償 62万円

答 村の966全世帯に味噌を配布

問 まめな暮らし応援商品券事業費 3160万円

答 村民1人あたり1万円の商品券配布

問 個人番号カード交付事務費 45万円

答 マイナポイント申請経費

問 道路維持補修工事費 234万円

答 村道内ヶ竜滝ノ下線、西野区民運動場線、官沢西山線、大録田大久保線の維持補修工事

問 道路改良工事費 1258万円

答 赤坂西野字石ノ花地内の真坂川支流の護岸工事

議員6人が登壇ズバリ!! 村政を問う!



P 6

もり たかゆき
森 隆之 議員

- 小中一貫校設立
- 部活動の地域活動への移行状況



P 9

ほんごう ひろよし
本郷 弘義 議員

- 森林の伐採保全管理



P 7

ほうじょう としお
北條 利雄 議員

- 村長選立候補への所信



P10

あおと よしゆき
青戸 義之 議員

- 手・まめ・館の耐震改修
- 農業持続化対策



P 8

みどりかわ しげる
緑川 茂 議員

- 中心地域活性化
- 人口減少対策



P11

まえ た たけひさ
前田 武久 議員

- 公約の事業設立
- 旧交流施設の管理
- 公共施設借地解消策



そうだ まさゆき
宗田 雅之 議長

一般質問は、議員の日常活動を通じて、住民の声や自身の考え方をもとに、村長、教育長などの方針を問うものです。鮫川村議会は、一人あたり90分の制限時間内であれば、質問の回数に制限はありません。



くぼ き こういち
窪木 浩一 議員



もり た しげお
森田 重男 議員



えんどう たかひと
遠藤 貴人 議員



森 隆之 議員

問

小中一貫校設立に向けた 今年度の計画は

答

幼保教育連携協議会において 基本構想の作成を進める



地域一体となって子供たちの望むスポーツ活動を応援したい!!

質問

村の小中一貫校設立に向けた今年度の計画とそれに係る予算額、また設立完了予定は。

答弁(教育長)

令和3年度より小中一貫教育について検討を重ねてきた。今年1月に検討結果を基に教育委員会としての考え

をまとめ、地域懇談会

の中でも、義務教育学校設立に向けてのイメージ像を示した。今年度は、これまでの検討結果を具現化するため、付属機関である幼保小中教育連携協議会において議論を重ね、基本構想の作成を進める予定。予算額は、幼保小中教育連携協議会

再質問

懇談会での地域住民の反応は、どこまで理解しているか。

答弁(教育長)

こちらの思いは、保護者や村民の皆様にある程度伝わっていると思っているが、まだまだ不十分な点もある。今後の経過等についてしっかりと広報や説明をして理解を図りたい。

質問

部活動の地域活動への移行状況は、教員の働き方改革の一環でもある。少子化に伴い、部活動の人数不足や生徒が自由に選択できないことなどの解消にもつながると期待されている。村の現在の進捗状況と2025年度まで完全移行となるのか。

答弁(教育長)

今年1月、運動部活動の地域移行についての理解促進と実態把握のために、小学校5、6年生の児童と保護者、中学校1、2年生の生徒と保護者を対象に部活動地域移行に関するアンケートを実施し、児童・生徒及び保護者の思いを把握した。4月には、部活動の方針を教育委員会として策定し、持続可能な部活動の運営が図られるよう休養日や練習時間の設定、地域との連携について、方針を定めた。さらに、7月以降に部

活動指導員を2名の方

にお願いし、教員がいなくても部活動指導や大会引率ができるような体制づくりをして、地域移行への足がかりとしていく予定。また部活動が設置されていない種目に取り組みたい生徒については、特設陸上部や文化部等に所属した上で、外部団体で活動することを認める。地域移行に向けて柔軟な対応ができるようにした。

今後は、スポーツ少年団との関係も考慮して、合同チームを編成していく考え。なお、文化部の活動についても、村の各文化団体を受皿に、地域移行を進めていきたいと考えている。

教育委員会としては、部活動の受皿となるような方々と話し合いを進めて地域移行について協力を求め令和8年度には、地域移行が図られるように、準備を進めていきたいと考えている。

令和8年度に完全移行を目指して準備を進めている

中学校部活動の地域活動への移行状況は



北條 利雄 議員

問 村長選立候補への所信は

答 村民の幸福度向上に邁進する

質問

村長が2期目の立候補に当たり、前回選挙に掲げたマニフェスト（公約）の成果の点検確認と評価を総括されるのか。今期中は、自然災害での復旧・復興や新型コロナウイルスなどへの対応に全力を挙げて取り組みをされたこともあり、マニフェストの内容の全てが満足できるものではなかったとも推察できる。これらを踏まえ、どのような考えの下に、2期目への立候補を決定されたのか。さらに、村の活性化、人づくり、産業振興、福祉充実、教育充実、生活基盤充実などの具体的な取組を掲げるのか。

答弁(村長)

4年前の立候補は、「人づくりと教育、産業の振興、子育て支援、助け合う互助、美しい村と資源の活用、災害に強い村、健康づくりと文化の継承」を提示し、それらの課題に相応した8つの「村民主体の村づくり」を目指すた

め理想の村を具体的に掲げた。第4次振興計画や総合戦略の計画と照らし合わせ、年度別の施政方針を示してきた。2期目の立候補は「俯瞰(ふかみ)的に将来を見据える鳥の目、つぶさに足元を見る虫の目、時代の流れを大きく見極める魚の目」を持ち備え、村民の幸福度向上に向けて邁進する。

再質問

行政は日々、状況は変化する。その変化に最新の注意を払うとともに、状況に合わせた適時、適切な対応を常に考えて、実現に集力していく姿勢が必要でもある。施策の具現化、方策をどのような形で、実現するのか。

答弁(村長)

国県の施策もスピードを増している。特にDX等、デジタル田園都市構想の大きな国のプロジェクトもあり、スピードを持って、説明責任を果たす。村民の意

見を持って新しい総合戦略をつくる。

再質問

議会選挙は11人が審判を受けた。テーマや役割を言い表す言葉、ものの見方や考え方はそれぞれ。具体的な詳細は議員活動を通じて明らかになる。地域懇談や対話の日の声を含め、全ては村民のために生かす展望と決意は。

答弁(村長)

2期目のテーマは「皆さんの笑顔を守る」、これに尽きる。ものの価値というのは、全て「ありがとう」の精神と感謝の気持ちです。「皆さんの笑顔を守る」、この短い、このテーマで、今期に臨む。

意見

トップリーダーの役目は、村民の多様性を束ねて複数の要素を調和させ、柔軟な地域社会をつくること。こうした動きには、フリクション、摩擦もつきもの。いかにしてそれら

の普通の要素を調和させ、コーディネートするか、新しい自治を、我が村を、我が地域を築くかである。課題は山積みである。

が2期目、本当に問われる。私も、議員の立場から、いろんな面で行政を批判するのではなく、政策提言をしつかりとさせていただく。展望と決意を持った村長選への立候補の所信に期待を含めて、一層の活躍を願う。



2期目への所信を表明する関根村長



問

中心地域活性化に対する 今後の見通しは

答

総合戦略策定の中で 住民参加による協議を重ねる



活性化拠点として期待される中心地域

質問

令和元年に立ち上げて議論してきた「中心地域活性化協議会」の協議の内容と経過は。また、その後なぜ協議会が止まったままなのか、再開する見通しは。

答弁(村長)

平成28年に鮫川村人ロビジョン総合戦略の基本理念である「子ども・若者・女性の自己表現ができる環境づくり」を具現化することを目的に中心地の活性化と村内における就労の場を創出するための方策として中心地域活性化基本構想を策定した。

令和元年6月に住民20人を委員とする中心地域活性化協議会を設置し、令和2年1月まで6回開催した。その協

議会において、老朽化している手まめ館の建替え等の課題を踏まえて村内全世帯を対象に鮫川村中心地域活性化拠点施設設備に関するアンケートを実施した。その中で手まめ館の経営状況や人材育成、中心地域活性化の拠点のあり方に対する慎重な意見もあり、総合的な判断により中心地域活性化協議会は、令和2年以降開催は見合わせている。しかし、手まめ館は年々老朽化しており、後に建設された手まめカフェ、加工施設、公共トイレや館山公園との連動性を考慮しながら直売所の整備は計画しなければならない。今年度から、第3期総合戦略の策定に入り、その中で協議会という形ではなく、住民参加による中心地域の活性化について協議を重ねて参りたい。

再質問

希望の持てる村づくりのためには、中心地域の活性化は避けて通れない。

ない重要なことである。今後の具体的な計画内容は。

答弁(村長)

今年度新設した「村づくり推進室」の中で、総合的に村の将来性をどの様に目的をもっていくのかという大事な会を今年から始める。学識経験者、村民の皆様、関係者の方々にも入って頂き総合戦略の骨格をつくる中に中心地域の活性化も含めて今年から着手する。

問 将来に向けて
人口減少対策は

答 若者の定住・子育て支援に取り組む

質問

年々人口が減少している現状を踏まえて、どのような認識で捉えているのか、また、将来に向けてどの様な対策が必要と考えているのか。

答弁(村長)

村の人口減少を巡る

状況は年々深刻化し、少子高齢化が進み若者を中心に就職等による村外への流出に歯止めがかからない状況が続いており、将来の担い手となる若者や青少年の減少は、持続可能な村づくりには大きな影響を及ぼしている。人口減少を和らげるための基本的な考え方として、長期と短期の目指す方向性を示している。長期的には、出生数を増やすこと、死亡者数を減らすことを目的として、出産、子育て支援、健康寿命を延ばすための取り組みを進め、短期的には、転出を減らし、転入を増やす社会像に近づけることを目的として、移住・定住への支援策、定住促進策を図る。

令和3年度から移住定住支援として、45歳以下の若者の住宅取得に対し、補助金を交付している。今後も人口減少対策を村の最優先課題と捉え、人口減少に歯止めをかけるため、若者の定住、子育て支援に取り組んでいく。



本郷 弘義 議員

問

森林の伐採保全管理の重要性は

答

適正に指導管理をしている

質問

本村における森林の伐採関係について。
①年間に於ける杉等の伐採面積や所有者・業者について、把握しているか。
②伐採等の届出等は。
③伐採後の植林造林等の計画及び助成等は。
④伐採後、土砂の流出による災害や公道から

の進入路の破損、汚損はないか。
⑤森林は、30年から50年の周期で循環できる貴重な資源である。有効に活用してほしいが。

答弁(村長)

①伐採面積について、過去3年間の伐採面積、令和2年度が約63ヘクタール、令和3年度が

約46ヘクタール、令和4年度が約157ヘクタール。

②これらの面積は、森林法に基づき森林所有者や伐採業者から提出された伐採及び伐採後の造林の届出書を集計したもの。森林の所有者や業者についても届出

によって把握している。また、森林法により、届出を受けて、その伐採計画の内容が鮫川村森林整備計画に適合しているかを確認をしている。植林造林等への助成制度はないが、県において造林や間伐、下刈りなど、森林整備に対する造林補助制度が用意されている。

③伐採後、土砂の流出による災害や公道からの進入路の破損、汚損について、令和元年の台風19号のとき、国有林の搬出路から土砂の流出があった。また崩落が数件発生したが、ここ数年はない。

④森林は木材の供給のほか、湧水や洪水を緩和する水源、涵養かんよ

う機能、山地災害の防止機能等、森林には多面的な働きがある。このような森林の働きを十分に発揮させるため適切な管理、整備が必要であると考える。
⑤村では、森林環境譲与税を活用して、昨年度は朝日山登山道の整備を行った。今年度は、森林遊歩道の整備のほかに、日陰林や危険木の伐採を検討している。そのほか、森林資源の一つである薪のさざり荘への供給のほか、ふるさと納税の返礼品として活用している。

再質問

近年の世界的なウッドショックにより、木材の価格が大変高騰し、国産材の需要が増えてきている。森林資源は、先代の方々が子供のため、孫たちのためにと一生懸命植林し、さらに下払いを何年も行い管理をしてきたものである。

また、山林は治山治水にも大きな役割を担っている。防災の面、水資源確保の面からも

行政の保全管理の指導、助言や助成金の有効な活用を指導すべき。

答弁(村長)

森林整備、森林再生事業や広葉樹林の再生事業も継続して取り組んでいる。

また、譲与税を有効活用し森づくりや生命財産の源、水の確保にも森林が必要であり、動植物の生態系保全を考慮しながら整備も含め推進していく。

意見

長い間、木材は輸入材に押されて、価格が下がっていたため、山林の手入れもなく、ほぼ放棄状態であった。

最近の木材相場の高騰は、近年にない木材の売りどきになっていく。先人たちの苦労が報われ、後世の世代にもつなぐことができるよう願う。



青戸 義之 議員

問 手・まめ・館の耐震改修は

答 早期の計画と着手



早期の耐震改修が望まれる手・まめ・館

質問

手・まめ・館は、農産物加工、直売所として、村内外の利用者に提供するサービスや地産地消の拠点として重要な施設。その施設も建物が老朽化しており、平成23年耐震診断の結果、性能の一部に、耐震改修の必要ありとの診断結果が出ている。それを受け、現在の状況や今後の対策、計画は。また

答弁(村長)

現在地での改修となるのか。これを機会に別の場所に移転するのか。
手・まめ・館は、旧鮫川幼稚園の建物を改修し、平成17年11月に開設した。施設の老朽化に加えて、一部耐震補強を実施していないため、大規模改修や建て替えを検討する必要がある。

村内では、ほとんどの家庭が農業に携わっている。しかし、米の値段が上がらないため、経費ばかりがかかってしまい、今後、持続していくことは困難。農業から撤退する家庭が増えることが予想される。それに伴い、田畑の管理が行き届かなくなり、農地が荒れ、景観も悪くなる。

質問

答 独自の支援策を検討

問 農業持続化対策は

令和5年度予算を編成するに当たり、総合的公共施設の中長期的計画の着手を掲げている。施設の整備、更新、解体や処分計画、さらには、施設の集約化を含めた総合的な計画を策定すべき時期を迎えている。今後、手・まめ・館を含めた各施設の適正配置や集合化、解体なども含めて、年度別整備計画や財政計画などを総合的に検討していきたい。



支援策が期待される耕作放棄地

答弁(村長)

新規就農者に対して助成をしていくのも必要。現在の農家が持続していける対策も講じなければならぬ。今後、村では、農業に携わる農家に対して助成等、どのような対策方法を考え、進めていくのか。

米価の下落に加え、昨今の飼料、農業資材の価格高騰など、農業を取り巻く情勢は厳しさを増している。今後、高齢化や人口減少による担い手不足、耕作放棄地の増加が懸念される。今年度、地域計画策定に向けた集落座談会の開催予定。地域の農地を誰が利用し、農地をどう集約していくか、農地を含め、地域農業をどのように維持、発展させるか。今後の農家への支援については、地域計画策定後の目標地の現実に向けた国の支援策の活用を合わせて、村独自の新たな支援策についても検討していく。



前田 武久 議員

問 公約の事業設立は

答 困難な課題が判明

質問

村長公約の「環境公社」「特定地域事業協同組合」設立運営を、令和5年度当初に図るとした公約への説明責任は。

答弁(村長)

環境公社設立は、許認可に要する即解決困難な問題が生じ、公社設立の前に手段の一つとして特定地域事業協同組合設立を選択した。

再質問

振興公社準備室を解散後、環境公社設立に向け前副村長をリーダーとし6回の協議、その後現在の副村長に引き継いだが具体的な協議内容、説明がなかった。今回議会が新体制になり同僚議員にもわかるよう説明を求める。

答弁(副村長)

環境公社をすぐ止めるのではなく今できるものから始めたい。まずは、特定事業協同組合と今年中設立検討の村内外ボランティア、仮称「草刈り応援隊」の設立に向け検討している。

再質問

環境公社、事業協同組合設立運営開始の答弁が先送り、今度は草刈り応援隊設立の構想等、いつまでも言い訳ばかりで不信が募る。実現の見通し確実性のある答弁を求める。

答弁(村長)

ご指摘のとおり本村の原風景が最大の宝、荒廃する農地。環境をシルバー人材センターと連携し守り、人手不足の事業所への支援や環境を守っていく。

問 旧交流施設の管理は

管理されていないので指導した

質問

令和4年度以降無償貸与している旧交流施設への維持費と関連予算が一般会計から支出。有効活用されているものと思うが、運用状況を問う。

答弁(村長)

固有財産、無償貸与は契約を締結し1年2ヶ月

経過。村と事業者の負担区分を明確にしている。

再質問

支出の中で、自動体外式除細動機リース分を村が負担しているが、リース解約返還すべきと思うが。

答弁(村長)

リース分は緊急時に村の施設に治療機として借用のため。

再質問

事業費の修繕料77万円の内訳説明と公費負担金約140万円。村に対する還元効果は。

答弁(農林商工課長)

利用客が少なく経営が大変と推察。客からの問い合わせは月何件かで、数か月一旦休館して、連休5月数人受け入れがあったが、それ以外の利用は聞いていない。

再質問

管理状況荒廃が見られ、地域住民から指摘がある。また村長自ら本人に聞き報告すると言った。貸与者の本村在籍状況、住民票の有無は。

答弁(村長)

住民票ない。本人は矢吹町の人。

再質問

住民税1円も納入されない。村外の方に年間数百万円を6年間。貴重な税金を費やし施設管理も十分できない方に、無償貸与は村民が納得できないと思うが。

答弁(村長)

確かに施設管理されていないので、口頭で話をした。今後、状況を把握し指導したい。

再質問

無償貸与にも疑念があり反対した。契約条項に反する気がする。無償貸与を見直すべきと思うが。

答弁(村長)

約束した契約書があり、違反した場合、契約解消もある。今後解消よりも使っていただけのように指導したい。

問 公共施設借地解消策は

契約年数の短縮につとめた

質問

公共施設借地解消に積極的な姿勢を就任時に示され、結果を期待しているが、その成果を問う。

答弁(村長)

地権者の方、様々な事情により交渉が進まない。

再質問

就任時の答弁では、明日から毎晩全戸回って交渉に入るとの約束があった。進展しないとのこと。地権者側との交渉内容を問う。

答弁(村長)

借地件数が多く、内容も様々で、契約年数期限に入る前に譲渡いたただけるよう交渉に行きたい。契約年数の短縮も何件がある。

意見

借地問題に対しては財政改革にもつながるので本気になって取り組むべき。

次のページは

議長・副議長就任あいな

町村議会広報研修会

6月27日(火) 福島市の「とうほうみんなの文化センター」において「伝わる議会報の企画と編集」をテーマに行われた。



真剣な面持ちで話を聞く議員



より良い広報を作るために

議員勉強会開催中!

今年度より月に1回、議員勉強会を開催しています。これは、議員お互いの情報交換や共有をはかり村政に有意義な提言を行うための勉強会です。



第1回目は総務課、2回目は村づくり推進室の今年度事業計画や村の方針等の説明を聞きました。

議長就任あいさつ



宗田 雅之

この度、5月開催の臨時議会におきまして、議員各位のご推挙を賜り、村議会議長に就任させて頂くことになりました。身に余る光栄であり、心より感謝致しますと共に、その責任の重大さを痛感している所で

あります。

現在、次世代を担う子供の減少、高齢者福祉など、多くの課題が山積している中でありますが、地方自治の本旨であります行政と議会がしっかりとした議論を重ね、これらの課題に対処すると共に地域の再生イメージ、方向性を示すなど、村民の為の施策を実施していくことが、明日の村発展に繋がるものと確信しております。

今後とも決意を新たに、さらなる村発展と村民福祉の向上、また公正かつ円滑な議会運営のため職責を果たす覚悟でありますので、村民皆様のご支援、ご指導をお願い致します。就任のご挨拶といたします。

副議長就任あいさつ



緑川 茂

私は、5月10日の改選後初の議会臨時会におきまして、副議長に選任を頂きました。誠に光栄でありますと共に、その責任の重さを痛感しております。

一期目の新人議員ではありますが、自己研鑽に励み副議長の職務を遂行し、議長の補

佐役として、村政の推進と議会の公正、かつ円滑な運営に努めて参る所存であります。

さて、本村は少子高齢化及び人口減少などに伴い、取り巻く環境は大変厳しい状況ですが、それに対応すべく、住民の声に耳を傾け村政に反映出来るよう提言し、誠心誠意副議長としての職責を果たして参ります。

私が掲げているキャッチフレーズは、「絆でつくる明るい未来」であります。人口減少がさらに進む中で絆の精神を大切に、村民皆様が将来にわたって希望をもち、安心して生活できるような環境づくりが、とても重要であると思えます。

今後とも村民皆様の温かいご支援、ご指導をお願い申し上げ就任の挨拶と致します。

新体制が決定

総務文教常任委員会

- 委員長 前田 武久
- 副委員長 森 隆之
- 委員 遠藤 貴人
- 北條 利雄
- 宗田 雅之

産業厚生常任委員会

- 委員長 本郷 弘義
- 副委員長 青戸 義之
- 委員 窪木 浩一
- 森田 重男
- 緑川 茂

議会運営委員会

- 委員長 森 隆之
- 副委員長 青戸 義之
- 委員 本郷 弘義
- 前田 武久
- 緑川 茂

ふるさと鮫川への想い シリーズ④7

さめがわとさめがわ 世の中の変化を経て

お店を構えて6年目となる今、商店が少ない住宅街という立地ではありませんが、お客様に恵まれて、地元の理を生かし、夫婦で切り盛りしております。

丁度お店が3年目を迎え

- ◆ プロフィール
- ・昭和42年生まれ
- ・鮫川小学校、中学校卒業
- ・棚倉高等学校卒業
- ・小田急線世田谷区経堂にて山海食道(さんかいしょくどう) さめがわ経営



渡部 良一さん(旧姓 板橋)
妻 美奈子さん
東京都世田谷区在住(道少田出身)

頃、全世界が新型コロナウイルスの感染拡大で、世の中が大きく変わる事態となり、世の職業同様、我々飲食業も未曾有の危機に直面する事となりました。

当時は政府の要請が出され営業がまともにも出来なくなり、コロナ禍で何が正解なのか先が見えなく不安の中、やれる事はないかと考えるうちに、地元経堂にコロナ禍前から鮫川村の手まめ館さんが農産物販売会に毎月来ていたという事もあり、当店で手まめ館さんの商品を扱わ

せて頂けないかとお願いしたところ、快諾して下さい、当店で小さな販売会を開く事が出来ました。

販売会には、ご常連のお客様をはじめ、周辺に住む、来店された事が無い方々も足を運んで下さり、この販売会を機に、鮫川村と当店を知って頂くきっかけにも繋がって、故郷鮫川村とお客様には、大変助けて頂き、私達の大きな力となりました。

そして、今年でお店を構えて丸6年ではありますが、予期せぬ事もあったりと色々経験させて頂きながらも、現在こうして、村の野菜や鮫川村の地酒、福島県の日本酒を扱いながら、東京世田谷の「さめがわ」を順調に営み続けられているのも、温かいお客様と鮫川村の関わって下さった全ての方々の支えあってこそだと大変感謝しております。

今年も山の幸を送って頂く機会があり、お客様は鮫川村の山菜を毎年楽しみにして下さいと下さります。時季の物をお客様に召し上がって頂くと「地の物は美味しいね」と喜んで頂けます。

お客様に「鮫川村は、どんな所？」と興味深く聞かれます。世田谷に生まれ育った妻

も、一度訪れて見てもらいたい風景が沢山ありますと話しています。

山に囲まれ贅沢な程の自然と美しい空と夜の星の煌めき。太平洋に流れる大事な元というべき鮫川の上流・童謡の歌詞の様な子供の頃、川で泳ぎ、フナやメダカを獲っていた姿を思い浮かべると村の風、緑の香り、木漏れ日が懐かしく甦ります。

寿司屋の修行時代、魚を学ぶと鮫川村のような川の上流から豊富な栄養素を含んだ綺麗な水が流れ流れて海へと放出する事で、おいしい魚が獲れるのです。

本当に綺麗な鮫川を残したい！それが「山海食道(やまうみしよくのみち)さめがわ」の未来でもあります。



編集後記

「コロナも5類となり、5月の大型連休も大いに賑わい各地に活気が戻る中、株価がバブル期を上回っても物価や燃料の高騰により依然として景気回復を感じる事が出来ない方も多いのではないのでしょうか。

これから夏本番、お盆の帰省シーズンなど鮫川も賑やかにありますが、台風やゲリラ豪雨なども多くなる時期です。農作物の管理など大変かと思いますが、村民の皆さんが安心して暮らせるよう今後も努めてまいります。

(広報編集委員)